

第6回 愛媛クリニカルパス研究会

—どうして院内でクリニカルパスが拡がらないのか—

プログラム・抄録集

日時：平成20年7月12日（土）12:00～16:00

（受付開始 11:00～）

会場：松山市総合コミュニティセンター「キャメリアホール」

松山市湊町7丁目5番地 TEL：089 - 921 - 8222

会費：2000円

第6回愛媛クリニカルパス研究会
当番世話人
独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

共催：愛媛クリニカルパス研究会・(株)大塚製薬工場

ご挨拶

このたび、第6回愛媛クリニカルパス研究会が松山市にて開催されることになりました。

愛媛クリニカルパス研究会が発足してから5年が経過し、この間、愛媛県内施設におけるクリニカルパスの運用状況もかなり進展しているのではないかと思います。今回、この研究会を開催するにあたり、皆様方のご協力を得て各施設のクリニカルパスの作成や体制の現状についてアンケート調査をさせていただきました。その結果、クリニカルパスの作成件数や運用方法等について、施設によりかなり差があることがわかりました。多数のクリニカルパスを運用している施設から、これからパス作成に取り組む施設などさまざまです。

当院では平成11年にクリニカルパス委員会が設置され、現在24種類のパスが作成、承認されています。しかし、当院の患者様の特性（高齢、慢性期）もあり、活用されるパスは少ないという状況を抱えています。地域医療と連携を取りながら医療の質の向上を図るべく、クリニカルパス委員会をさらに活発に機能させていこうと頑張っているところです。

今回の研究会では、「どうして院内でクリニカルパスが拡がらないのか」をメインテーマにあげ、シンポジウムと特別講演を企画させていただきました。

まず、アンケート調査の結果の概要を報告させていただいた後、シンポジウムでは、なぜ院内でクリニカルパスが拡がらないのか、その現状と課題等を発表していただきます。

特別講演では岐阜大学医学部附属病院 医療情報部 准教授 白鳥義宗先生をお迎えし「私の考えるクリニカルパスの現状と未来～何のために何を目指して我々は電子パスを使うのか？～」の演題でご講演をいただきます。また、ポスターセッションでは一部発表とパスの展示をいたします。

本研究会を契機にクリニカルパスの現状を踏まえて、今後どのように考えパスを役立てていけばよいのか、各施設においてパスを作成あるいは運用していくうえで少しでもお役に立てればと思っています。

本研究会が実り多い会になりますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第6回愛媛クリニカルパス研究会 当番世話人

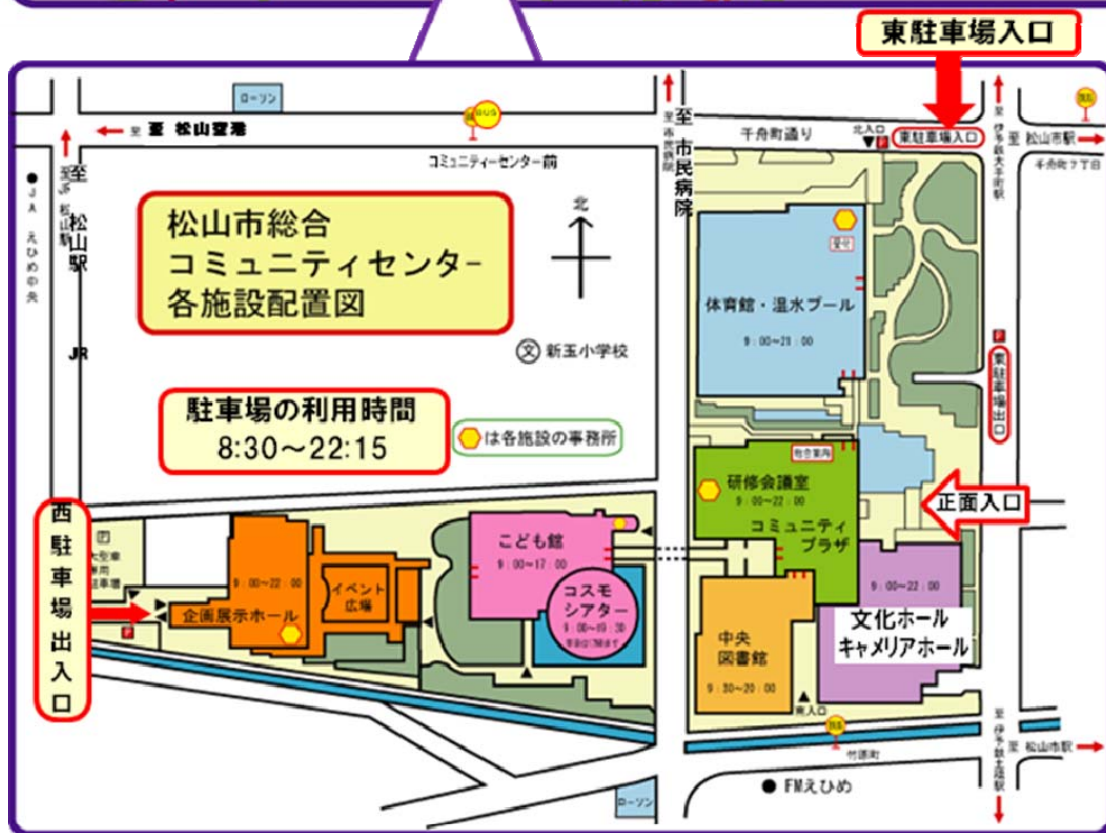
独立行政法人国立病院機構愛媛病院 西村 一孝

プログラム

- 12 : 00～12 : 50 ポスターセッション
- 13 : 00～13 : 05 開会の挨拶 国立病院機構愛媛病院 院長 西村 一孝
- 13 : 05～13 : 15 クリニカルパスアンケート調査報告
国立病院機構愛媛病院 看護師長 西宮 由美子
- 13 : 15～14 : 45 シンポジウム『どうして院内でクリニカルパスが広がらないのか』
- 座長 済生会西条病院 副院長 石井 博
住友別子病院 看護部長 相坂 秀子
- シンポジスト
- | | | |
|----------------|-------|--------|
| 国立病院機構愛媛病院 | 看護師長 | 兵部 佐代子 |
| 国立病院機構四国がんセンター | 消化器内科 | 仁科 智裕 |
| 愛媛県立中央病院 | 外科 | 椿 雅光 |
| 愛媛県立三島病院 | 看護長 | 近藤 昭子 |
- 14 : 45～14 : 50 事務局報告
次年度世話人施設挨拶
- 休憩 —
- 15 : 00～16 : 00 特別講演
- 座長 国立病院機構愛媛病院 統括診療部長 阿部 聖裕
- 『私の考えるクリニカルパスの現状と未来
～何のために何を目指して我々は電子パスを使うのか?～』
- 岐阜大学医学部附属病院 医療情報部 准教授 白鳥 義宗 先生
- 16 : 00 閉会の挨拶

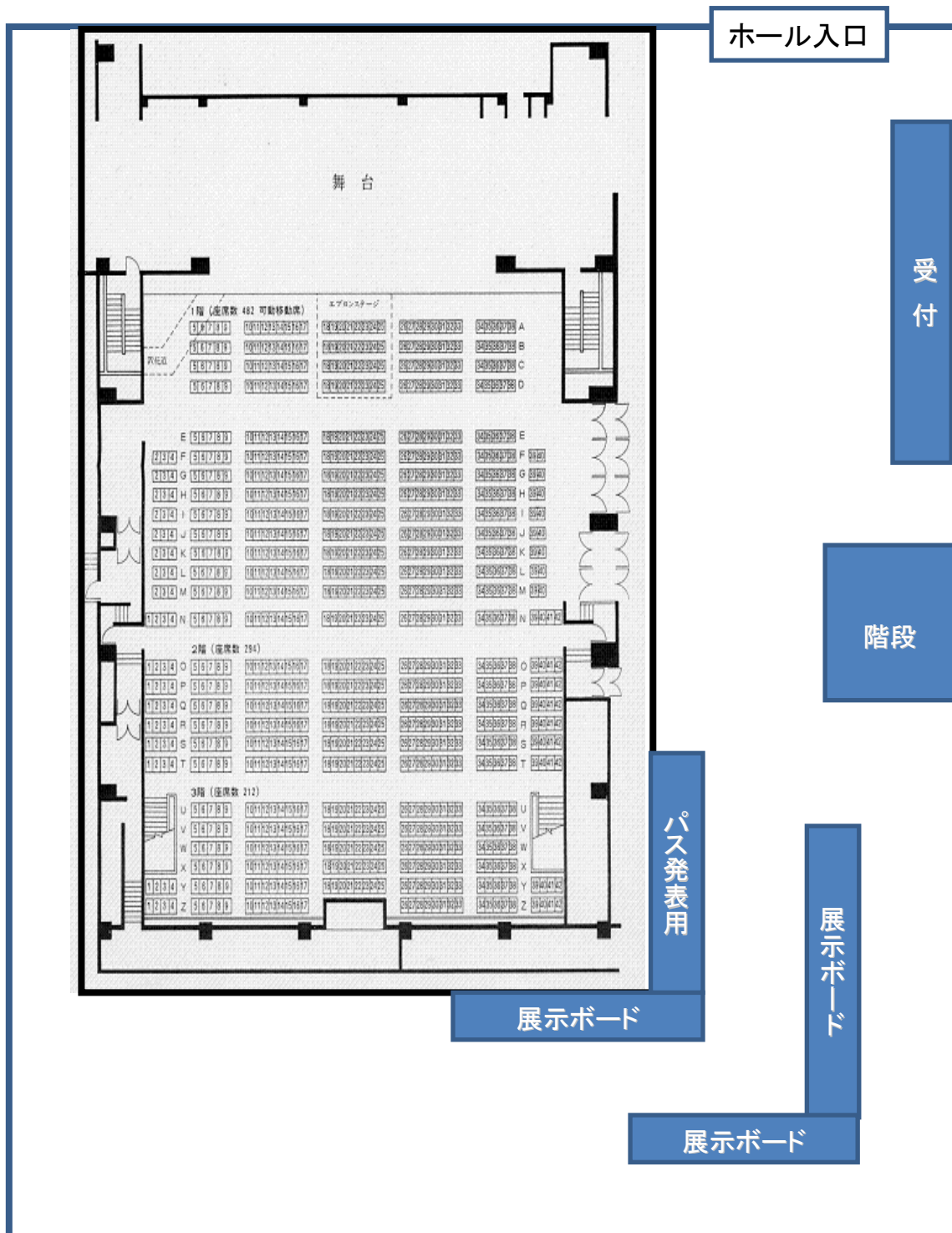
※ ポスター展示（キャメリアホール前ロビー） 12 : 00～15 : 00

松山市総合コミュニティセンター 周辺詳細地図



※ 東駐車場 98台、西駐車場 148台 と限りがございますので、
乗り合わせ、もしくは公共交通機関をご利用の上、お早めにお越し下さい。

カメラリアホール



※会場内は飲食禁止です。飲食はロビーにてお願いします。

特別講演

私の考えるクリニカルパスの現状と未来 ～何のために何を目指して我々は電子パスを使うのか？～

岐阜大学医学部附属病院 医療情報部
准教授 白鳥 義宗

私が初めてクリニカルパスに関わる事になったとき、パスを勧める国の方針には多くの疑問・不安を抱きました。意外かもしれませんが、私はどちらかというところパス反対派だったのです。私は院内すべての病棟医長とお話をし、きちんとした根拠に基づきはっきりと「パスはできない！」と主張された方々にパス委員として御協力いただくことにしました。そうして当院のパス委員会コアメンバーは選ばれました。その方々が、そして現場が、納得できるパスを作れなければとても広がらないと我々は考えたからです。

「まだまだ当院のパスはひよ子のようだ」とうちのパス委員の人達は言います。でもいい仲間にもまれ、委員みんなでパスを少しでも良くしようと一生懸命努力してくれています。パスの嫌いな私と、パスは大学病院では出来ないと感じていたパス委員が、どんなことを考えて、パスで先行しているみなさんの病院に少しでも追いつこうとしてきたのか？それを振り返りながら、今一度、パスは何のためにおこなうものなのか？そこに立ち戻って考えてみたいと思います。

私が答えを持っているわけではありませんが、流行だからやるパスではなく、我々のこれからの医療を支えるパスをみなさんと一緒に作っていきたいと思います。是非ご参加ください。

Memo

アンケート報告

愛媛県内施設におけるクリニカルパスの実態報告

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院
看護師長 西宮 由美子

愛媛県クリニカルパス研究会発足から5年が経過した。今回、県内各施設のクリニカルパスの現状を把握するためにアンケート調査を行った。無作為抽出した有床病院146施設を対象に調査を行い、70施設から回答を得た（回収率47%）。

施設で活用しているパス件数は0～224数と幅が広い。パスの作成方法は看護師と医師の作成が最も多いが、まだまだ看護師中心でコメディカルを含めた作成は進んでいない。

作成されたパス形式はオーバービュー形式が多く、パスの使用率は高いが運用されていないパスもある。パスの見直し、バリエーション集計も実施され約8割がパス使用効果を認めていた。

シンポジウム

『どうして院内でクリニカルパスが広がらないのか』

座長

済生会西条病院 副院長 石井 博

住友別子病院 看護部長 相坂 秀子

シンポジスト

国立病院機構愛媛病院 看護師長 兵部 佐代子

国立病院機構四国がんセンター 消化器内科 仁科 智裕

愛媛県立中央病院 外科 椿 雅光

愛媛県立三島病院 看護長 近藤 昭子

どうして院内でクリニカルパスが拡がらないのか

済生会西条病院
副院長 石井 博

今回『どうして院内でクリニカルパスが拡がらないのか』に関してシンポジウムが開催されます。クリニカルパスは医療の質を確保する重要な道具（ツール）であることは、一度でも使われたことがある皆さんにとって良くご存知のことだと思えます。パスが拡がらない理由としてパスが作成されない、使用されない、変更されない等があると考えられます。これらをシンポジウムで考察し、作成されやすい、使用されやすい、変更されやすいパスとはどのようなものか？およびその方法は？の回答が少しでも得られればと考えています。この機会に是非皆さんの活発な討議をお願いしたいと思います。

シンポジウム①

当院におけるクリニカルパスの現状と課題

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院
看護師長 兵部 佐代子

当院では平成11年にクリニカルパス委員会が設置され、肺がん化学療法のクリニカルパスが第1号として承認されている。その後、クリニカルパス導入検討会の開催やパス作成グループが結成され、24種類のパスが作成、承認された。

しかし、承認されたパスの中で現在使用されているものは、15種類であり、まったく使用されないまま、評価もされず放置されているパスも多い。新規に作成されるパスも少なく、平成19年には2種類が承認されたのみである。クリニカルパスが普及しない原因として、当院は高齢の慢性期の患者が多く、病状や経過の個別性が高くパスで対処しにくい、クリニカルパス委員会、作成グループが十分機能しておらず、病院全体でパスを活用しようとする意識が低いことなどがあげられる。

このような状況の中、委員会規約の見直し、診療科別のワーキンググループの再結成など院内の活性化に向けて動き始めた当院の現状と課題を報告する。

シンポジウム②

がん化学療法クリニカルパスの作成と運用 ―取り組みと問題点―

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

1) 消化器内科、2) 血液腫瘍科、3) 看護部、4) 薬剤科、5) 形成外科

○仁科 智裕¹⁾、野田 奈々子³⁾、吉田 功²⁾、小暮 友毅⁴⁾

森 ひろみ³⁾、松久 哲章⁴⁾、河村 進⁵⁾

がん領域において検査や手術療法のクリニカルパス（以下パス）は多くの施設で使用されておりその有用性が示されている。当院でも積極的にパスを導入しオーバービューパス→日めくり式→オールインワンパス→アウトカム志向型パスへと改定し、承認パス数も2008年6月現在88件にのぼっている。しかし、がん治療のひとつの核である化学療法（以下 化療）は、院内登録レジメン数に比べて承認パスは21件と少ないのが現状である。全がん協の多施設の調査でも手術パスに比べ化療パスが少ないという結果が出ている。がん化療パスの導入が進まない理由としては有害事象があらゆる時期に生じ個人差が多いことなどでパス化に不向きであること等があげられている。しかし、がん化療にはチーム医療や診療の標準化が必須であり、その推進を図るためにもパスの導入が重要であると考え、当院では、現在、化療パスの導入推進を急務として行っている。その取り組みとして患者状態の観察項目やパスフォーマット等の院内統一にむけたパス作成・運用規約の見直しや公開パス大会の開催などがある。今回、当院での化療パスへの取り組みの現状と問題点について報告する。

クリニカルパスの問題点

愛媛県立中央病院
外科 椿 雅光

クリニカルパス（以下パスと略）導入は、初期には円滑に進められたが、現在はやや停滞している。外科の場合、その理由は電子カルテ導入と診療体制の変化である。

紙カルテ時代にはパスは医師にとって指示自動化のための便利グッズとして使用された。ところが、電子カルテでは医師ごとに指示セット化ができ、パスなしでも指示自動化が可能で、パスのメリットを感じない医師も多く、自然にパス利用が少なくなった。

診療体制の変化も要因である。一般外科は、呼吸器、乳腺甲状腺、上部消化管、肝胆膵、下部消化管グループに分かれ、臓器特異度がかなり高い。疾患の担当医が限定されて、指示は統一され、自然と標準化された。広義のパスと呼ぶべき現象である。

一方、パスは看護師にとって看護オーダー自動入力など便利な道具である。職種間の温度差は大きく、パス普及の妨げになっている。これ以上の普及には、医師にとってのメリットを明確にする必要がある。

当院の現状から

愛媛県立三島病院
看護長 近藤 昭子

当院では平成13年に、看護部と院内のクリニカルパス委員会が発足され、現在院内のパスは、外科系・内科系・整形外科系等の合計38種類を作成・導入するに至っている。主に使用されているパスは、数種であり、年度によりその使用されるパスの種類が変わっている。原因としては診療科の変更・縮小、常勤医師の減少などによるものが大きいと考えられる。またパス委員会の構成メンバーも数年で入れ替わる事が多い上に、小規模病院では個人が多くの役割を抱えている為、十分な討議の場を持つには困難な面もある。昨年、看護師のパス使用に関する意識調査を行い、結果からは、使用できるパスの啓蒙や標準化に向けて、院内全体へと強く発信していく必要性が明らかになった。パスに関してはまだまだ模索状態と言える。

当院のような小規模病院においてパス推進を図るためには、まず組織内を横断的に活動できる「幹」となる人材と、各部署にリーダーシップを発揮する「枝」となる人材がいて、真のチーム医療を目指して周囲を巻き込んでいくことが必須と考える。

Memo

ポスターセッション

<パス発表>

司 会：国立病院機構愛媛病院 看護師長 小谷 加奈子

No	施設名	演題名	演者名
1	松山赤十字病院	大腿骨頸部骨折地域連携パス ーパスの紹介及び運用状況についてー	○高岡 達也、吉岡 雄一
2	四国がんセンター	経皮内視鏡的胃瘻増設術(PEG)パス導入後の 利点と修正案	○林 靖子、森 万純、 藤本 邦弘、橋本 数江、 高田 喜久美、西村 美鈴
3	四国がんセンター	愛媛県における胃がん手術パスのベンチマーク	○船田 千秋、黒瀬 水紀、 横田 繁子、大和田 和美、 森 麻美子、廣瀬 節子、 藤井 洋子、清水 あかね、 栗田 啓、野崎 功
4	四国がんセンター	愛媛県における大腸がん手術パスのベンチマーク	○久保 義郎、船田 千秋、 後藤 華奈子、古川 美由紀、 中若 純子、浜口 五月、 宇都 宮里奈、梶田 靖子、 大内 明奈

展示 12:00～15:00

＜パス展示＞

パス展示代表者の方は、12:00～12:50 までご自身のボードにて待機しておいて下さい。

No	施設名	パス名	代表者名
5	四国がんセンター	乳癌術後放射線治療アウトカム志向型パス	渡邊 恵
6	四国がんセンター	胃切除術パス	森 麻美子
7	愛媛県立三島病院	PEG	石崎 雅浩
8	愛媛県立三島病院	前立腺生検	石崎 雅浩
9	愛媛県立三島病院	胃切除術パス	石崎 雅浩
10	済生会松山病院	白内障手術パス	青木 美春
11	済生会今治病院	糖尿病教育入院	佐々木 直美
12	済生会今治病院	内視鏡的胃粘膜剥離術(ESD)	渡部 真紀
13	済生会西条病院	橈骨遠位端骨折(プレート固定術)リハビリ用パス	水口 孝二
14	済生会西条病院	大腿骨近位部骨折骨接合術	秋山 直美
15	済生会西条病院	両眼白内障手術	石川 マリ子
16	十全総合病院	腹腔鏡補助下大腸切除術	太田 和美、明星 景子
17	十全総合病院	経皮内視鏡的鏡的胃瘻増設術	太田 和美、森 歌織
18~25	松山赤十字病院	化学療法 8種	川添 導信
26	西条中央病院	成人鼠経ヘルニアパス	小野 仁志

パス発表①

大腿骨頸部骨折用地域連携パス ーパスの紹介および運用状況についてー

松山赤十字病院 リハビリテーション科
PT 高岡 達也

2006年6月以降、当院を計画管理病院として松山地区5病院との間で大腿骨頸部骨折用地域連携パスの運用を開始した。年3回合同連絡会議を開催し医療者用パスの改正を行い、現在は連携パス Ver.3.7 を使用している。また、連携病院は8病院となった。

パスの使用状況について：当院ではここ二年間で 242 名の大腿骨頸部骨折患者に手術を施行した。転帰先は、34 名が自宅退院、194 名は転院（131 名・67.5% が連携病院へ転院）、14 名が施設入所となった。現在までに、パス適応 131 名中 77 名（58.8%）が 転院先パス適応と返信があった。今回は連携パスを紹介し2年間の運用状況について紹介する。

パス発表②

経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）パス導入後の利点と修正案

林 靖子、森 万純、藤本 邦弘、西村 美鈴
（四国がんセンター NST 委員会）

橋本 数江
（現 国立病院機構南 岡山医療センター 看護師長）

高田 喜久美
（現 国立病院機構 高知病院 看護師長）

平成19年10月よりPEGパスが導入された。当院では、頭頸部悪性腫瘍患者に対する治療前の予防目的や、術後の嚥下障害に対しての補助的な栄養投与方法、食道狭窄に対して使用している。本年5月までの16件の症例を元に、パス導入の利点と問題点を検討、修正したので報告する。

パス発表③

愛媛県における胃がん手術パスのベンチマーク

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 看護部 消化器外科
○船田千秋、黒瀬水紀、横田繁子、大和田和美、森麻美子、
廣瀬節子、藤井洋子、清水あかね、栗田啓、野崎功

平成 18 年に制定されたがん対策基本法を受け、当県でも平成 20 年度がん対策推進計画、分野別目標及び施策において、「医療機関の機能強化と医療連携体制の整備（1）医療機関の機能強化“がん診療連携協議会において、拠点病院のクリティカルパスを標準化”」を掲げた。これは、県内のがん診療連携拠点病院を中心に、5 大がん（胃がん、乳がん、肺がん、肝臓がん、大腸がん）におけるクリティカルパスの標準化を進め、がん医療の均てん化・標準化を目指すとしている。

この、愛媛県がん対策推進計画を受けた愛媛県パス研究会の取り組みとして、パス研究会加盟施設の胃がんクリニカルパスのベンチマークを行い、パスの標準化＝医療の標準化の示唆を得ることを目的として報告する。

パス発表④

愛媛県における大腸がん手術パスのベンチマーク

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 消化器外科 看護部
○久保義郎、船田千秋、後藤華奈子、古川美由紀、中若純子、
浜口五月、宇都宮里奈、梶田靖子、大内明奈

平成 18 年に制定されたがん対策基本法を受け、当県でも平成 20 年度がん対策推進計画、分野別目標及び施策において、「医療機関の機能強化と医療連携体制の整備（1）医療機関の機能強化“がん診療連携協議会において、拠点病院のクリティカルパスを標準化”」を掲げた。これは、県内のがん診療連携拠点病院を中心に、5 大がん（胃がん、乳がん、肺がん、肝臓がん、大腸がん）におけるクリティカルパスの標準化を進め、がん医療の均てん化・標準化を目指すとしている。

この、愛媛県がん対策推進計画を受けた愛媛県パス研究会の取り組みとして、パス研究会加盟施設の大腸がんクリニカルパスのベンチマークを行い、パスの標準化＝医療の標準化の示唆を得ることを目的として報告する。

愛媛クリニカルパス研究会 世話人施設 (順不同)

No.	世話人施設名	〒	住所	TEL	FAX
1	松山赤十字病院	790-8524	松山市文京町 1 番地	089-924-1111	089-922-6892
2	愛媛県立中央病院	790-0024	松山市春日町 83	089-947-1111	089-943-4136
3	道後温泉病院	790-0858	松山市道後姫塚乙 21-21	089-933-5131	089-933-5137
4	済生会今治病院	799-1502	今治市喜田村 7 丁目 1-6	0898-47-2500	0898-48-5096
5	宇和島社会保険病院	798-0053	宇和島市賀古町 2 丁目 1-37	0895-22-5616	0895-24-5838
6	住友別子病院	792-8543	新居浜市王子町 3-1	0897-37-7111	0897-37-7121
7	済生会西条病院	793-0027	西条市朔日市字榎ヶ坪 269-1	0897-55-5100	0897-55-6766
8	愛媛県立三島病院	799-0422	四国中央市中之庄町 1684-2	0896-23-3345	0896-24-7741
9	愛媛県立南宇和病院	798-4131	南宇和郡愛南町城辺甲 2433-1	0895-72-1231	0895-72-5552
10	愛媛大学医学部附属病院	791-0295	東温市志津川	089-964-5111	089-960-5131
11	愛媛病院	791-0281	東温市横河原 366	089-964-2411	089-964-0251
12	市立八幡浜総合病院	796-8502	八幡浜市大字大平 1 番耕地 638	0894-22-3211	0894-24-2563
13	市立宇和島病院	798-8510	宇和島市御殿町 1-1	0895-25-1111	0895-25-5334
14	十全総合病院	792-8586	新居浜市北新町 1-5	0897-33-1818	0897-37-2124
15	西条中央病院	793-0027	西条市朔日市 804	0897-56-0300	0897-56-0301
16	愛媛県立新居浜病院	792-0042	新居浜市本郷 3 丁目 1 - 1	0897-43-6161	0897-41-2900
17	石川病院	799-0121	四国中央市 上分町 732-1	0896-58-2222	0896-58-2223
18	愛媛労災病院	792-8550	新居浜市南小松原町 13-27	0897-33-6191	0897-33-6169
19	愛媛県立今治病院	794-0006	今治市石井町 4 丁目 5 の 5	0898-32-7111	0898-22-1398
20	四国がんセンター	791-0280	松山市南梅本町甲 160	089-999-1111	089-999-1100

愛媛クリニカルパス研究会会則

第1条（名称）

本会は愛媛クリニカルパス研究会と称する。

第2条（目的）

本会はクリニカルパスを使用した医療、つまり EBM を取り入れた医療の標準化、チーム医療、患者様中心の医療の実施を普及、啓発を目的とするものである。

第3条（構成）

1. 会員：原則として愛媛県内の医療従事者で本会の目的に賛同するものとする。
2. 世話人：会員の中から若干名の世話人を選出し、その中から代表世話人を選出する。
3. 会計監事：世話人の中から選出する。

第4条（事業および運営）

1. 研究会などの開催：本会の目的を達成するために原則として年2回の研究会および本会が必要と認める事業を開催する。
2. 世話人会：世話人会を南予、中予、東予の3ブロック構成で組織し、本会の運営にあたる。
3. 当番世話人：本会開催のための当番世話人は3ブロックの持ち回りとする
4. 会の開催にあたっては各ブロック内で決定した施設が行う。
5. 会計監事：本会の財務を監査するものとする。
6. 主旨に賛同する、団体、企業との共催は、世話人会の承認を得て、開催する事ができる。

第5条（事務局）

本研究会の事務局は独立行政法人国立病院機構四国がんセンターに置く。

事務局は世話人会の決定で変更できる。

会計は事務局が代行する。

第6条（参加費）

会への参加者は参加費として2,000円を納める。

参加費は会場費、通信費などに使用するものとする。

第7条（会則改正）

本会則の変更、会計監事の変更、事務局の変更、世話人の変更・追加は世話人会の決定で行うことができる。

付則

本会則は2004年3月20日より施行する

改訂：2007年7月7日